

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

中高校生の部 優秀賞

母の優しさ

笠間中学校二年

仲原 なかはら

弥香 みか

「母はどんな人か。」

と聞かれたら、私はきつと不満ばかりを口にす。特に最近では本当に不満ばかりで、優しいことをしてくれても全く気づいていなかった。そこで今日は母の優しさについて考えてみた。そして私は、母の言っていることの本当の意味と優しさには種類が2つあるということに気がついた。見えない優しさ。母への不満は多くある。例えば「人は人、自分は自分。」

母はすぐにそんなことを言う。私がちよつとみんなはとかあの子はとか言うとそのたびに

「人は人、自分は自分でしょ。」

と言う。なのに母は私を怒る時、誰かと比較することが多い。私が勉強をしなれば

「あの子はもう課題おわったって。」

とか言うし、私が手伝いをしなれば

「あの子毎日朝ご飯つくってるって。」

とか言う。言っていることが矛盾していると思う。でもある時、部活の先生が言った言葉が私に、それは矛盾ではないと教えてくれた。

「部活の応援をしてほしいなら、勉強も頑張つて、お手伝いもしないのだめだよ。」

と先生は言った。これは自分の望みだけをおしつけて、親の望みは無視するのはだめだよと言っていると私はとらえた。私は母に何か言われたときは「後で」とか「今やろうと思つた」とか都合のいい言い訳をして、結局やらなかったり、怒鳴られてからやつとやつたりと、ほとんど無視をしていた。それなのに私は望みを母に無理矢理おしついたりしていた。こんなので望みを受け入れてもらえるわけがないなと今は思う。さらに考えてみれば、私の望みや比較の仕方と母の望みや比較の仕方は全く種類が違つて気がついた。私の望みはすべて遊びのことや楽しいことばかりで、みんなはとかそういうのは、その望みを実現させるためのただの

言い訳にすぎなかった。結局私は自分のことしか考えていなかった。しかし母はどうだろう。母の望みは私に勉強や手伝いをしてほしいというものだ。そして誰かと比較をしていたのは私に刺激を与えて頑張らせるためだと私は思う。私は比較されるたび、「その子の方がいいんでしょ。」と思つていた。でもそれは全然違つて、母は私を成長させようとしてくれていたのだ。母の言葉には意味がある。1つ1つに意味があり、それは私を恥をかかないような大人にするためのものなのだと思う。母の見えない優しさだった。矛盾などしていなかったのだ。今は反抗期も重なつて、きつと言いかえしてしまふこともあるけれど、母の優しさだと思ひ、

これからは、少しずつ受け入れていけるようになればいいと思う。

見える優しさ。もちろん母にはしっかりと伝わる優しさもある。例えば母は私が家に帰つてきてぐつたりしていると、

「頑張つたね。」

と声をかけてくれる。この言葉を聞くと私の疲れは少しだけ吹き飛ぶ。明日も頑張ろうと思うことができる。母は私のことを理解してくれていて、いつも私の立場になつて物事を考えてくれる。これが一番の優しさだと思ふ。これからは私も母のことを理解するようにしようと思ふ。そして、母のことを一番わかるようになっていこうと思ふ。

私は母をとて強い人だと思つていた。体調がよくなくても仕事へ行くし、ご飯もお弁当も作つてくれる。私はそれをただすごいなと思つていただけで、あたり前だと思つていた。でも今考えて分かつたのは、もちろん母は強い人ではあるけれど、母がしていることはすべて家族のためで、家族のために強くなつていこうということだ。だからもちろん疲労が限界になつたときには動けなくなるだろうし、傷つくことだってあると思ふ。そんな時、母の一番の支えになるのは私たちの優しさだと思ふ。私はそれが普段から感謝を伝えることだと思ふ。

「ありがとう。」

たつたの5文字でも恥づかしいこともある。もしそうなら

「いただきます、ごちそうさまでした」
など毎日あたり前に言うことにも感謝を込めればいつか必ず伝わり、母の支えになっていけると思う。

今回母の優しさを考えてみて母は優しさでいっぱいの人だと分かった。これから、怒られたりしてもそれは優しさだと思ひ母の言うことの本当の意味を理解し、感謝し、それをしっかりと伝えていきたいと思う。

